

1. はじめに

公共職業訓練施設での向上訓練は企業内教育などと相異なる独自性をもつ必要がある。この公共向上訓練の独自性は、訓練内容の側面と指導方法の側面から追求しうる。

われわれは長年の職務経験をもつ技能者を対象として、“技能診断クリニック方式”“とらえなおし向上訓練”(略称、N I S)方式を開発したが、これは公共向上訓練の独自なものといえよう。この方式ではアンドラゴジーの諸原理をふまえて、従来の向上訓練のように“教えてやるぞ”というスタイルの授業展開にならないように留意している。¹⁾

なぜ、この点に留意するかと言うと、在職技能者が自らの職場経験を見直したり、職場の若者の条件にあわせて自分の身につけたものを表現するコミュニケーション能力を高める意味での向上訓練においては、一方的な教え込み方式では指導者側が意図するものがなかなか伝えられないからである。それゆえに、“教える側の一方的な教えこみ”方式ではない、何か別の方式を探求しようとする。

この“一方的な教えこみ”方式の対極にはいろいろの方式が考えられる。例えば、学習者自らが悟る方式といったものもありうる。

ここではFrerieの見解にしたがって、一方的な教えこみを「伝達的教育」ととらえ、その対極として「対話的教育」を仮においてみよう。²⁾

この対話という用語の意味は十分に吟味すべきであるが、³⁾Bollnowは対話における“談話の交互性”を強調している。この“談話の交互性”に着目すれば、対話的な向上訓練では指導する側も受講する側も授業のなかでのやりとりを通じて“交互に他の中に入り込むこと”を必要条件とする。⁴⁾

このような“交互に他のなかに入りこむ”という点からは、従来の向上訓練はこの条件を満たしていない。しかし、われわれの開発した“技能診断クリニック方式”の向上訓練では、一方的な教えこみではない授業展開がなされてい

る。例えば、技能診断プロセスでは学習者自らが自分の技能的欠落点に気づけるように学習課題が作られているし、自主研修プロセスでも実験、実習、グループ討議をとり入れ、指導者側から一方的な教えこみにならないような学習環境にしている。⁵⁾

このように授業展開を工夫してはいるが、かならずしも十分とは言えない。例えば、座学的な授業においてはどうしても指導する側からの教えこみにならざるをえなかった。⁶⁾

そこで、本研究では、“一方的な教えこみでない”向上訓練、対話的な向上訓練とはどのようなものを明確にすることを目的として、具体的には次の事項を検討する。

つまり、「旋盤加工技能クリニック」の日程のうち、“技能診断”と“自主研修”との中間に行われた、“課題の討議”の授業展開を文章化し、その授業展開の特徴を抽出する。

さらに、この授業分析の結果をもとにして“一方的な教え込みではない”向上訓練、対話的な向上訓練のもつべき諸条件について考察する。